

「職人集団の移住はあったのか？」

群馬県立中央中等教育学校 1年
柿本 敦輝

1. 研究の目的

去年学校で古墳について学んだことに興味を持ち、大阪府の大仙古墳（堺市）と今城塚古墳（高槻市）を訪れました。高槻市の「ゆるキャラ」は「はにたん」と呼ばれる埴輪をイメージしたキャラクターであり、実際、高槻市では数多くの埴輪が発掘されていることを知りました。一方、群馬県でも多くの埴輪が発掘されています。質も量も全国屈指とのこと（注1）。群馬県と大阪府とは東西に大きく離れていますが、その関係を、発掘された埴輪を通して考えることにしました。

高槻市の今城塚古墳の近くには新池埴輪製作遺跡があり、今城塚古墳の埴輪を作った工場の跡とされています。日本最古で最大級の埴輪工場であり、埴輪を焼く窯18基、工房3棟、職人たちの住居も整っていたとのこと（注2）。埴輪のような複雑な工作物を製作するためには、それを専門とする職人の集団がいたようです。

群馬県で発掘された多くの埴輪が県内で作られたと考えると、県内に埴輪づくりの集団があったことが推測できます。それでは、大阪府と群馬県の埴輪製作の職人集団の間にはどのような関係があったのでしょうか。

古墳の形式とその造営年代などから、近畿地方で始まった古墳文化が東国に少し遅れて入ってきたと言われています。埴輪づくりについても同じことが起こったのではないのでしょうか。そこで次のような仮説を立てました。

仮説1

近畿地方の埴輪づくり職人たちが群馬県に移住し、県内の埴輪製作と製作指導を行った。

このことはどのように確認することができるのでしょうか。

まず、群馬県での埴輪の製作時期が近畿地方のそれよりも遅いことが分かる

必要があります。群馬県の埴輪が職人集団の移住後に作られたのなら、その製作時期は少し遅れているはずだからです。

また、埴輪のデザイン・種類を比べた時に、近畿地方のものを引き継ぎつつ、群馬県の埴輪に新しい種類・デザインが付け加わっていることが分かります。文字・書物がまだなかった当時、壊れやすくかさばるため運搬に適さない埴輪のようなモノについて、そのデザイン・種類に変化があるとすれば、職人たちが移住後に、移住先の文物に触れた結果として独自の種類・デザインを作り始めるという順序になるはずだからです。

そこで最初の仮説と関わりのある2つ目の仮説を次のようにたてました。

仮説2

群馬県の埴輪には、近畿地方の埴輪よりも県独自のデザイン・種類が多い。

このことはどのように確認することができるでしょうか。

ここで注目するのは馬の埴輪（馬形埴輪）です。群馬県の埴輪の特徴の一つは、これが多いことのようにです。移住してきた職人たちが群馬県の文物に触れたとき、馬を中心にデザインや種類を発展させたいことは十分に想像できます。

そこで、発掘された埴輪のうちから、馬の埴輪（馬形埴輪）のデザインと種類を近畿地方と群馬県で比較することにしました。もし仮説2が正しいならば、群馬県の馬の埴輪（馬形埴輪）のデザインと種類は、近畿地方のものよりも多く、豊かであると予想できます。

なお、文字による記録が残っていない時代なので、上の2つの仮説はモノを中心に調べる必要があります。また独自に発掘するのは難しいため、既に行われた発掘調査の資料をもとに考えることとなります。

（注1）2019年3月群馬県（発行）東国文化ガイドブック『ぐんま東国文化ものがたり』より

（注2）高槻市教育委員会文化財課（編集発行）『史跡 今城塚古墳附新池埴輪製作遺跡』より

2. 研究計画

上のように、群馬県の埴輪と大阪府の埴輪に関係があるのではという発想のもとに、埴輪づくりの職人集団と埴輪の種類・デザインについての仮説を立てましたが、仮説2の埴輪の種類・デザインについての具体的な研究に際しては、同じサイズ古墳からの埴輪を検討対象にすべきと考えました。古墳のサイズが違くと使われる埴輪の数と種類も大きく違うことが予想されるからです。

このことと、上で述べた発掘調査が進み、資料が整備されているという基準から、元の大阪府の今城塚古墳（下3参照）に加えて、群馬県については保土田古墳群八幡塚古墳（下4参照）の埴輪を検討対象に選びました。また近畿地方については、古墳のサイズが近く、同じく資料の整備された大阪府近隣（和歌山県和歌山市）の井辺八幡古墳からの埴輪を検討対象に選びました（下5参照）。

それぞれの古墳の概略と発掘された埴輪の種類・デザインについて、以下で説明します。

埴輪の製作年代、馬の埴輪（馬形埴輪）の種類・デザインについて比較することで、上の2つの仮説を検証します。

3. 今城塚古墳について（大阪府）

（全長約350メートル・総幅約360メートル96m・高さ6mの前方後円墳。6世紀前半に築かれた。）

実際の発掘品について十分調べられないが、史跡公園に再現された埴輪祭祀場には、家形埴輪、動物埴輪、人物埴輪を含め多様な形象埴輪が設置されているようだ。正確な数字は把握できないが概算で200点以上と見込まれる。そのうち馬形埴輪は同一の種類のもので10～15体ほどみられる。ここから計算できる馬型埴輪の比率は、 $(10\sim 15 \div 200 \times 100) = 5.00\sim 7.50$ で約5%から7.5%が馬型埴輪です。

<http://www.y-morimoto.com/kofun/imashiro.html>

4. 保土田古墳群八幡塚古墳について（群馬県）

（全長約96m・高さ6mの前方後円墳。5世紀後半に築かれた。）

ここからは、馬型埴輪は8体出土しました。他に、人型埴輪は、33体、その他は、8体で計49体の埴輪が出土しました。ここから計算できる馬型埴輪の比率は、 $(8 \div 49 \times 100) = 16.32$ で約16%が馬型埴輪です。

5. 和歌山県井辺八幡山古墳について（近畿地方（和歌山県））

（全長約88m・後円部径約45m・前方部幅約57m。井辺前山古墳群中で最大の前方後円墳。）6世紀前半～中葉につくられたと考えられています。

ここからは、馬型埴輪は2体出土しました。他に、人型埴輪は、20体、その他は、19体で計41体の埴輪が出土しました。ここから計算できる馬型埴輪の比率は、 $(2 \div 41 \times 100) = 4.87$ で約5%が馬型埴輪です。

5. 比較結果

・埴輪の製作年代について

（大阪府）今城塚古墳の築造年代と同じ、6世紀前半と推定されます。

（群馬県）保土田古墳群八幡塚古墳の築造年代と同じ、5世紀後半と推定されます。

（和歌山県）和歌山県井辺八幡山古墳の築造年代と同じ、5世紀後半と推定されます。

・発掘された馬の埴輪（馬形埴輪）の種類、デザインについて

（大阪府）今城塚古墳の祭祀場再現写真にみえる馬形埴輪の種類、デザインは1種類のみです。（出典：上記ウェブ上の写真によるカウント）

（群馬県）保土田古墳群八幡塚古墳の祭祀場再現写真にみえる馬形埴輪の種類、デザインは1種類のみです。（出典：独自調査によるカウント）

（和歌山県）資料なし。

各県の古墳で残念ながら馬形埴輪の種類とデザインを確定できる資料がありません。再現された祭祀場に並べられた馬形埴輪がどれだけ発掘された現物を再現できているかが不明です。

・発掘された馬の埴輪（馬形埴輪）の比率について

（大阪府）今城塚古墳 5～7.5% （ただし、再現されたものからのカウント）

(群馬県) 保土田古墳群八幡塚古墳 約16%

(和歌山県) 和歌山県井辺八幡山古墳 約5%

6. 考察

予想に反して、取り上げた3つの古墳の埴輪の製作年代は、群馬県が最も古いものでした(5世紀前半)。古墳の選択に問題があったかも知れません。この結果からみると、今城塚にかかわる新池埴輪製作遺跡にいた職人たちが群馬県に移住した可能性は否定されます。ただし、それ以前に大阪府や和歌山県に職人集団がいなかったとは考えられないため、それらの職人集団と群馬県の職人集団との関りを検討する必要があります。

次に、群馬県の馬の埴輪(馬形埴輪)の種類・デザインについてです。これについては信頼できる資料で確定することはできませんでした。

最後に、発掘された馬の埴輪(馬形埴輪)の比率については、群馬県が約16%であるのに対し、大阪府と和歌山県が5%から7.5%であるため、明らかに群馬県の馬の埴輪(馬形埴輪)の比率が高いことが分かりました。

全体としてみると、群馬県の埴輪が近畿地方から移住した職人たちやその指導を受けた人たちであることを確認することはできませんでした。

しかし、別の資料によると、検討対象とした保土田古墳群八幡塚古墳に限らず、群馬県内の古墳から発掘される馬の埴輪の数、種類・デザインは非常に多いようです。動物埴輪のうち90%が馬形埴輪であり、デザインもすばらしく多様です(注3参照)。群馬県の埴輪には群馬独自の特徴(=馬の埴輪の種類・デザインの多さ)と一致する重要な事実です。

これらのことは、埴輪製作の職人集団が実際に近畿地方から移住した証拠とは言えません。5世紀前半に群馬県内でも藤岡市と太田市で、専門の職人たちによって埴輪が大量生産されるようになったらしい(注4)。

この事実は、群馬県の埴輪が近畿地方の影響をうけつつも、独自に発展していたことを意味します。

これが分かったことが今回の収穫でした。

(注3) 群馬県(発行) 群馬県公式はにわガイドブック[ハニぼん]『HANI-本 あなたの知らない、はにわの世界』より

(注4) 2020年4月 群馬県・群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会
(発行) 『東国文化副読本』より

参考文献

群馬県発行 群馬県公式はにわガイドブック[ハニぼん]HANI-本 あなたの知らない、はにわの世界

群馬県・群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会発行 東国文化副読本

群馬県発行 東国文化ガイドブック 群馬東国文化ものがたり

群馬県教育委員会事務局文化財保護課発行 ぐんま古墳探訪

群馬県立歴史博物館友の会発行 図説はにわの本

高槻市教育委員会文化財課編集発行 史跡 今城塚古墳附新池埴輪製作遺跡

高槻市教育委員会文化財課発行 ハニワ工場公園

今城塚古代歴史館発行 いましろ 大王の杜

高槻市ホームページ <http://www.city.takatsuki.osaka.jp>

和歌山市ホームページ <http://wakayamacity-bunkazai.jp/iseki/5015/>

森本行洋氏ホームページ <http://www.y-morimoto.com/kofun/imashiro.html>